

10年後見据えた教育改革を推進

石巻専修大学

年頭の抱負

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患された方々とご家族の皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。また、感染拡大防止や治療などに日々ご尽力されている保健機関、医療従事者の皆様に深く敬意を表し、感謝申し上げます。感染が再拡大するなかで迎えた新年ではございますが、石巻専修大学は十全な対策の下、感染拡大の防止に努め、この危機を乗り越える所存でございます。関係する皆様方のご協力をより一層お願い申し上げます。



石巻専修大学長

尾池 守

全する生物科学科に新編することを構想しています。新生物科学科の各コースには教育目標を定め、一つのコースが一つの学科のように機能する四つのコースで構成します。工学系の機械工学科と情報電子工学科では、モノとヒトの動きから収集された情報に基づいて新たなモノやシステムを構築する力を磨く新カリキュラムを整える計画です。両学科では、今後の産業および社会に必要な不可欠であるICTやロボットなどの技術について複合的な基礎知識を備え、ソサエティ5.0(超スマート社会)やSDGs(持続可能な開発目標)に対応できる次世代エンジニアを育成します。

経営学部 新学科

時代の変化と社会の要請に対応しつつ、建学の精神「社会に対する報恩奉仕」と21世紀ビジョン「社会知性の開発」に基づき、学部学科における教育研究上の理念、目的を明確にし、独自性を発展的に実現するため、21年4月には経営学部情報マネジメント学科を新設します。地域に根ざした問題解決型の経営学科と、ヒト・モノ・カネの動きから集積したデータを社会科学的に意味づけ、価値の高い情報として世界に発信する情報マネジメント学科が共存する経営学部を構築します。

理工・人間を新編

さらに22年4月を目途に、理工学部と人間学部の教育課程の新編を進めます。理工学部では、生物科学科と食環境学科を発展的に統合し、多様な生物資源とそれを育む豊かな環境を保持

中長期ビジョン
(2020～2024年度)

1. 社会の諸課題解決に活用できる知識・技能を修得した人材を育成する
2. 教育研究活動を充実させる
3. 学習の質を向上させる環境を整備する

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

最新の
情報は
大学HPで。



RAF活動FBで紹介

経営・庄子ゼミ



経営学部・庄子真岐ゼミは「観光とまちづくり」をテーマに、実践的な活動・研究に取り組んでいる。2018年から、石巻圏域で開催されるアートと音楽と食の総合祭「リボン・アート・フェスティバル(RAF・フェスティバル)」に協力。今年度は、新型コロナウイルスの影響でフィールドワークなどが実施できないなか、フェイスブック(FB)で「石巻専修大庄子ゼミ生がつぶやく」リボン・アート・フェスティバル」を開設した。写真。FBでは、19年の同イ

魚市場を見学

食環境学科

食に関わる生産現場などを見学し、実践的な知識や技術を学ぶ「食環境学」が11月28日に行われた。食環境学科の1、2年次生26人と理工学部の坂田隆教授が石巻魚市場を訪れた。学生たちは、石巻魚市場の沿革や業務内容、近隣漁港も含めた品目別の水揚げ量や卸売価格などを事前に調べたうえで見学に臨んだ。当日は、初めに石巻魚市場(株)の志摩喜代一専務取締役から、市場の概要や特徴、東日本大震災からの復興について説明があり、続いて本学の卒業生でもある総務課の佐藤遼さん(平27理工)から市場での仕事



石巻魚市場の復興への歩みを学んだ

初の準優勝

東北学生弓道新人戦団体戦

12月5日に宮城県第二総合運動場近隣の弓道場(仙台市)で行われた東北学生弓道新人戦で、本学弓道部が団体準優勝を飾った。同大会の団体戦での入賞は創部以来初となる。

牡鹿半島チャレンジライドサイクリング愛好会が運営に協力

サイクリング愛好会の学生5人と坂田隆部長(理工学部教授)が、11月1日、「牡鹿半島チャレンジライド2020」の運営に協力した。イベントが行われた牡鹿半島は宮城県の太平洋に突き出た。来年度からは活動の幅を広げて、レースなどにも参加したい」と話した。

訂正

20年12月号7面「水産資源を生かす2実習」の記事で「狩野涼さん」とあるのは「狩野涼さん」の誤りでした。また、「経営学部特別授業」の記事で、「松本遼乃さん」とあるのは「松本悠乃さん」の誤りでした。おわびして訂正します。

自主性持ち経験を積む

安孫子 由弥さん

人間学部人間文化学科

東日本大震災のときに自衛隊員が被災者を懸命に救助する姿を目にして以来、自衛隊で人助けをしたいという気持ちを持ち続けてきました。進路として真剣に考えるようになったのは、2年次に参加した宮城県議の議員インターンシップがきっかけです。お世話になった議員が自衛隊に詳しく、いろいろと教えてもらうとともに、期間中に現役の自衛官から話を聞く機会を持てたことで、漠然としていた将来のビジョンが鮮



卒業論文発表会で研究の成果を報告する安孫子さん

編入を機に未来広がる

佐藤 天音さん

人間学部人間教育学科

専門学校で保育について学ぶなかで「より知識を深めたい」と考えるようになり、3年次から連携校である石巻専修大学に編入しました。今課題とされている幼小連携にも関心があり、保育と併せて小学校教育について学びたいと思ったことも理由の一つです。



教育実習での佐藤さん(9月)

もちろん楽しいことはかりでなく、特に実習は苦勞の連続。努力してもなかなか報われず、悔しい思いをしたことも数知れません。そんな私を助けてくれたのは、大学の講義内で行う模擬授業でした。人前に立って教える経験を重ねること、不安や緊張が解消され、小学校での実習にも自信を持って臨むことができるようになりました。

卒業後は保育教諭として働くとともに、幼小連携の取り組みにも積極的に関わりたい、地域や保育・教育業界に貢献したいと思っています。(岩手県水沢高、内定先〃奥州市役所(保育教諭))